

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-179	12-135	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
<p>Guidelines for alcohol screening in adolescent trauma patients: a report from the Pediatric Trauma Society Guidelines Committee.</p> <p>外傷患者の若者におけるアルコールスクリーニングのガイドライン:小児外傷学会ガイドライン委員会からの報告</p>		
執筆者		
Kelleher DC, Renaud EJ, Ehrlich PF, Burd RS; Pediatric Trauma Society Guidelines Committee.		
掲載誌		
J Trauma Acute Care Surg. 2013 Feb;74(2):671-82.		
キーワード		
若者、小児科、外傷、アルコールスクリーニング		
要 旨		
<p>目的:</p> <p>アルコール乱用は若者において予防可能な外傷の重要な情報源である。アルコールスクリーニングと短い介入がアメリカ外科学会に公認された外傷センターでは要求される一方、標準的なスクリーニング方法はない。検査のガイドラインを開発するため、外傷後の若者のアルコールスクリーニングについて、どの集団に対してスクリーニングが必要か、どのスクリーニングツールが最も効果的か、どの時点でスクリーニングが行われるべきかに焦点を当て、既存のエビデンスをレビューした。</p> <p>方法:</p> <p>アルコール依存症、外傷、スクリーニングに関連する文献をPubMedにて検索した結果、1,013の論文の抄録をレビューした。85の原著論文を除外基準にしたがって検討した。論文は研究タイプ、場所(アメリカ以外)、出版された年、研究目的に適さないことに基づき除外された。</p> <p>結果:</p> <p>26の研究が包含基準を満たした。外傷のある若年集団に対するアルコール乱用のスクリーニングを支持した。14歳以上の若者はアルコール乱用の検査で陽性と出やすいが、スクリーニングを12歳以下で始める必要があるかもしれないことを示唆した。アルコール使用障害特定テストと、精神障害の診断と統計の手引き第IV版に基づくアルコール使用障害の2つの質問調査により、調査及び生化学的スクリーニングのどちらの方法でも潜在的に危険な状態にある若者を同定できる。</p> <p>結論:</p> <p>負傷した若年外傷患者は、病院に来院中にアルコール乱用のスクリーニングをされるべきである。潜在的に危険性の高い若者が多く含まれる対象に介入するためスクリーニングは最低でも12歳から始めるべきである。全ての潜在的に危険性のある若者を同定する検査はないので、生化学的テスト及び標準化された質問票のどちらも用いた一連のスクリーニング手段はスクリーニングの有効性を高めるかもしれない。</p>		